



今宵
人妻の

柔肌
の中で

畠
山

桃
哉



とあるアパートで
学生生活を
初めて数ヶ月…

僕 河部朝彦
(カワベ アサヒコ)は
大変悩ましい問題に
直面している

友人に話すと
むしろ
羨ましがられたり
するが…

そんなのは
外野だから
言えるのだ…!

その問題とは…

おはよう
アサヒコくん!

妻のギャル 3日間

早起きできて
エライっ!

隣りに住んでいる
このギャル…
もとい人妻

縦山 芭
(モミヤマ ハナ)さんの
存在だった…

もちろんウチも
エライっ!

なぐんてね



あたしって
朝弱くてさあ…

これで
並の容姿なら
まだしも…

隣の僕の部屋で
丸聞こえなのだ！

とにかくこの夫婦は
ほぼ毎日致して
いるのだがその声の
大きいこと！

ちゃっかり
オカズにしている

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡



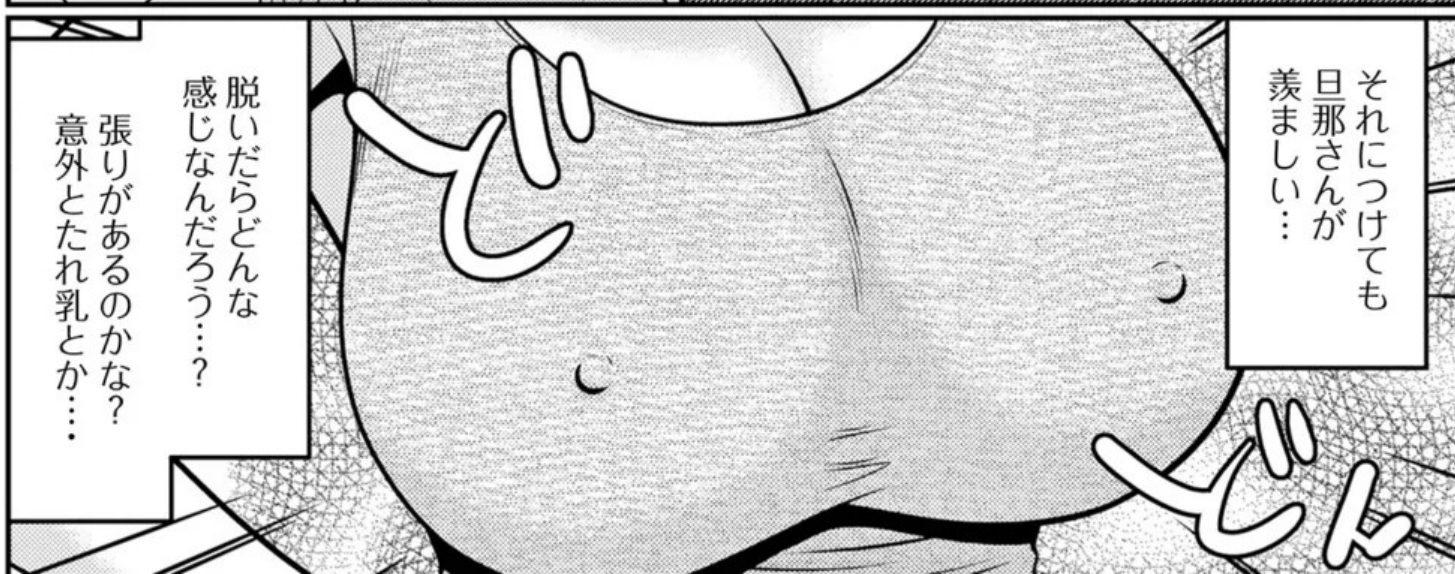
この美貌…
この身体つき…

若い男にとって
どれだけ刺激が強い
男性諸君なら
おわかりいただけるだろう

ごみ捨ても
ひと苦労なのよ
ねえ…

ははは

そりゃ
毎晩のように
やってりゃねえ…



それにつけても
旦那さんが
羨ましい…

脱いだらどんな
感じなんだろう…？

張りがあるのかな？
意外とたれ乳とか…



あっ!!



ちよつと

いくら私が
セクシーだからって
胸をジロジロ見るのは
まずくない?



も縦山
さん...っ!!

変な目で
見るから
仕返しいゝ



そんな
ある夜...



じゃあね
学生さん
勉強頑張って



.....!!

珍しいな
今日はやけに
静かだぞ...!!



.....

最近の僕は
終始こんな感じで
隣の人妻に
振り回されっぱなし
なのだった...







タンノウして
みたくない？

私の体…



その気があるなら
ドア開けという

9時位に
夜這いに行くから…

お



なんてね？

じゃあ
今晚ね
ハナヒコくん

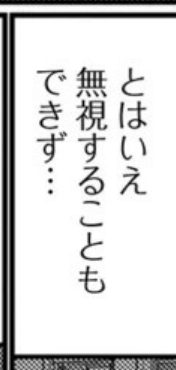
……



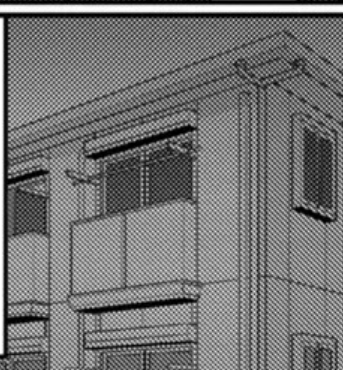
ドアが開いて…



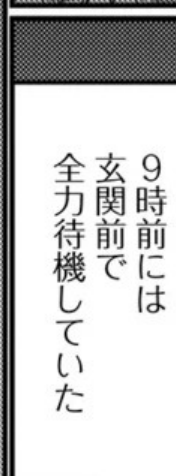
しばらく
音沙汰なく
やっぱり嘘かと
思った矢先…



とはいえ
無視することも
できず…



からかわれて
いるのでは？
と思いつつ…



9時前には
玄関前で
全力待機していた



とにかく僕は



ドキ
ドキ
ドキ
ドキ



茶髪の天使が
僕の前に
現れた…!!

ふふ…
おまたせ

興奮して
ずぶ濡れに
なっちゃった…



君が壁越しに
想像してた
私のからだ…



堪能して…



ドアが
開いてるって
ことは…

アサヒコくんも
おっくってことで
いいのよね?



ほらみて
アサヒコくん

久しぶりに
旦那以外の男を
受け入れるって
考えてたら…



大きいし
硬いし…

いいわね
アサヒコくんの
オチンチン



カリ高なもの
サイコッ

これなら全然
楽しめちゃう

あゝ♡

しかもこれ
浮気セックス
だよ…!!

背徳感
バリバリ
じゃん…っ

めちやくちや
やばくて
興奮して…っ

はっ♡

はっ♡

あっ♡

あっ♡

オマンコ
熱くなっちゃう…っ

はあああん…っ



縦山さんの
オマンコ
どうなっ
てるんだよ…!?

ヤバいくらい
気持ちいい…っ



きつい上に
ぬるぬる
うねって…
僕の精液を
根こそぎ
搾り取ろうと
してる…っ



ああ…っ

ちんぽが
溶けそうだ…っ

ああん…っ

こんなの素人人妻の
オマンコの
レベルじゃないって…



とはいえ
こんな気持ちいいこと
止められる
わけもないし…

あと3日…

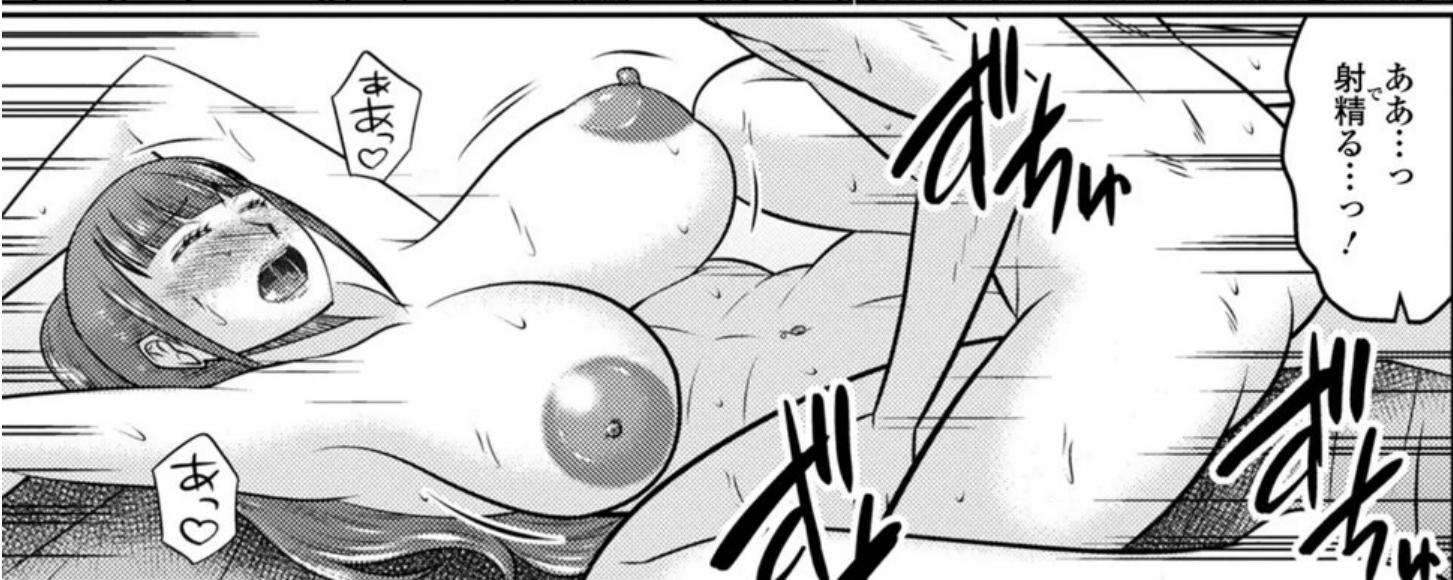


僕は
耐えられるのか…!?

すいません
もう行きそうです
縦山さん…っ

ハナでいいわよ
アサヒコくん

いいわ
君の濃いザーメン
私に頂戴…っ



ああ…っ
射精…っ!











僕も気持ち
いいですから…!

彼女は既婚者で…



ごめんなさい
こんなことに
巻き込んでしまつて…

はー♡

別に
構いませんよ

はー♡

僕は九鬼優樹^{ゆうき}で
彼女の名前は
長束日花里^{なかつかひかり}



はー!!

つまり僕たちは
不倫関係にある…



はああん…っ

どうして
こんなことに
なったのか…

話は
数時間前に遡る…



こっちよ
九鬼くん



数時間前
某所





僕は彼女に憧れる
副会長役…



彼女は
校内で評判の
美貌の生徒会長で…



だからこの呼び出しは
嬉しい反面
戸惑いもあった…

今更ヒカリさんが
僕に何の用だろう…!?



それで
あの…

最初に確認して
おきたいんですけど…

ご結婚は…
されてませんよね?

えええ…

お付き合いして
いる方とかも…

今は独り身…
ですけど…!?



嫌なら答えて
もらわなくても
いいんですが…



私を抱いて
いただけないで
しょうか？



じゃあ
恥を忍んで
言うんですが…

もし
よかったら…



は!!??

…
彼女の説明は
こうだった



ヒカリさんは
興奮すると
大きな声を出す
癖があつて…

夫の前で
その癖を出すのが
たまらなく
嫌なのだという…

そのため
夫を愛しているにも
関わらず夫婦での
セックスに満足できず
欲求不満が
溜まってしまい…

最後の手段として
夫以外の相手を
探すことにして…

僕が
指名されたという
わけだった…

でも
なんで僕に？

そういう
サービスみたいなのも
あるんじゃないですか？

どうせ
浮気するなら
信頼できる人が
いいし…

それに…

赤の他人より…

昔いなくなって
思ってた人のほうが…

…

ここまで言われて
引き下がったら
男がすたる

というわけで…

僕たちは
合意の元
不倫関係に
なったのだった…

ヒカリさん…
それ…

HOTEL



とんでもない
大好物です...!



せっかくなので
九鬼クンにも
喜んでもらおうと
思ってる...

こういうの
お嫌いですか？



あっ...

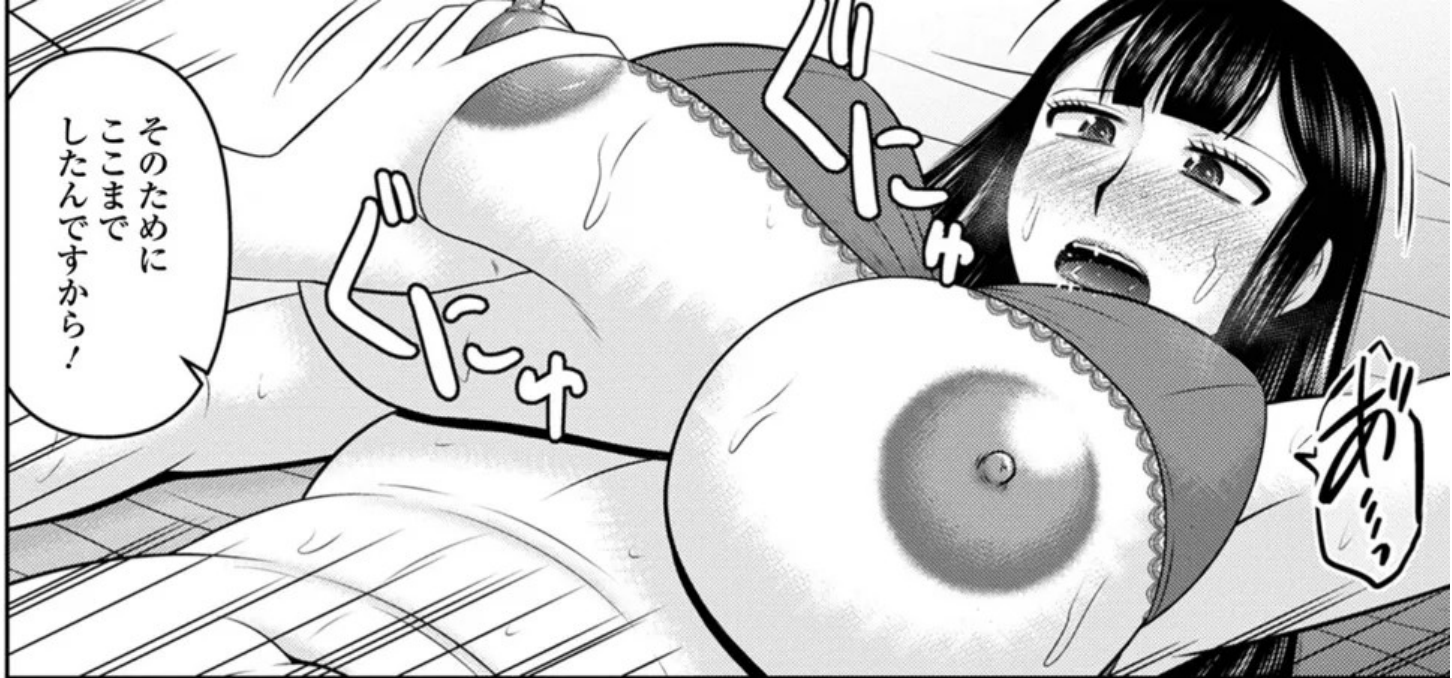
ん

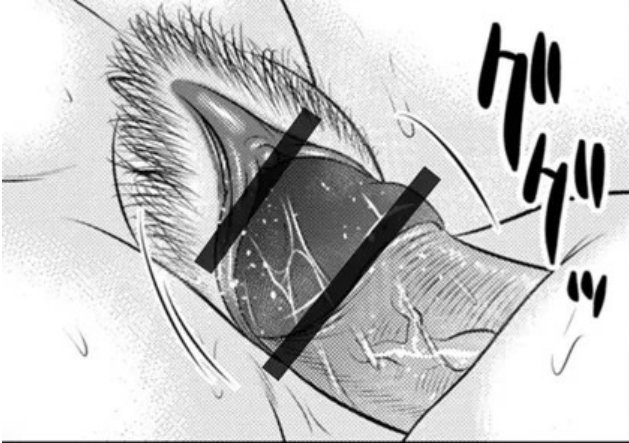
ぐわ



大丈夫です
気持ちよかったら
声を出してくださいね

ん













そんなに
僕とのセックスは
いいですか？

遠慮なく
声が出るように
なりましたね
ヒカリさん…!!



もつと…

気持ちよく
なっちゃいます…!



目一杯
楽しんでください…!

旦那さんと違う
男のおちんちん…



ああん…
そんな酷いこと
言わないで…

おん

おん





いや〜
ついに買って
しまった

このフィギュア
欲しかったん
だよねえ

お見事!
なかなかの
お値段でしたなあ

柿本は
推しのフィギュア
買わないの?

今度でるやつ
かなり出来が
いいんだろ?

えああ
お金がね…

あら
おかえり
へ〜たくん

バイトしてるんだろ?
推しに使わないで
何に使ってるんだよ?

いやまあ…

はは…

確かにバイトで
お金は
貯めている…

それを何に
使っていると
いえば…

隣の人妻は
サキュバスに違いない!



ふふ…
私達が合鍵作った
仲だってことでしょ？

ミヤさんが
勝手に作ったん
でしょう？



ほ 僕の名前は
たへいです！

それよりなんで
隣に住んでる人妻が
僕の部屋に
いるんですか？



もく
そんな
怒らないでよ
へくたくん

すん



ほら
こっち見て

僕がグッズを
揃えられない
理由…



ああ…っ

それは…

僕がバイト代を
全部この女性に
つぎ込んでるから…

ククッ

ククッ

ククッ

はー！

はー！

くせー

くせー

はー！



つまり
僕はこの人妻を
お金で買っていて…



もう
カチカチ…



あ…っ

とわん



僕のバイト代はすべて
この人妻に
吸い取られていたのだ

ほら
へくたくんも
脱ぎなよ…!?

慰めて
あげる…!

んん







わ分かり
ましたから...

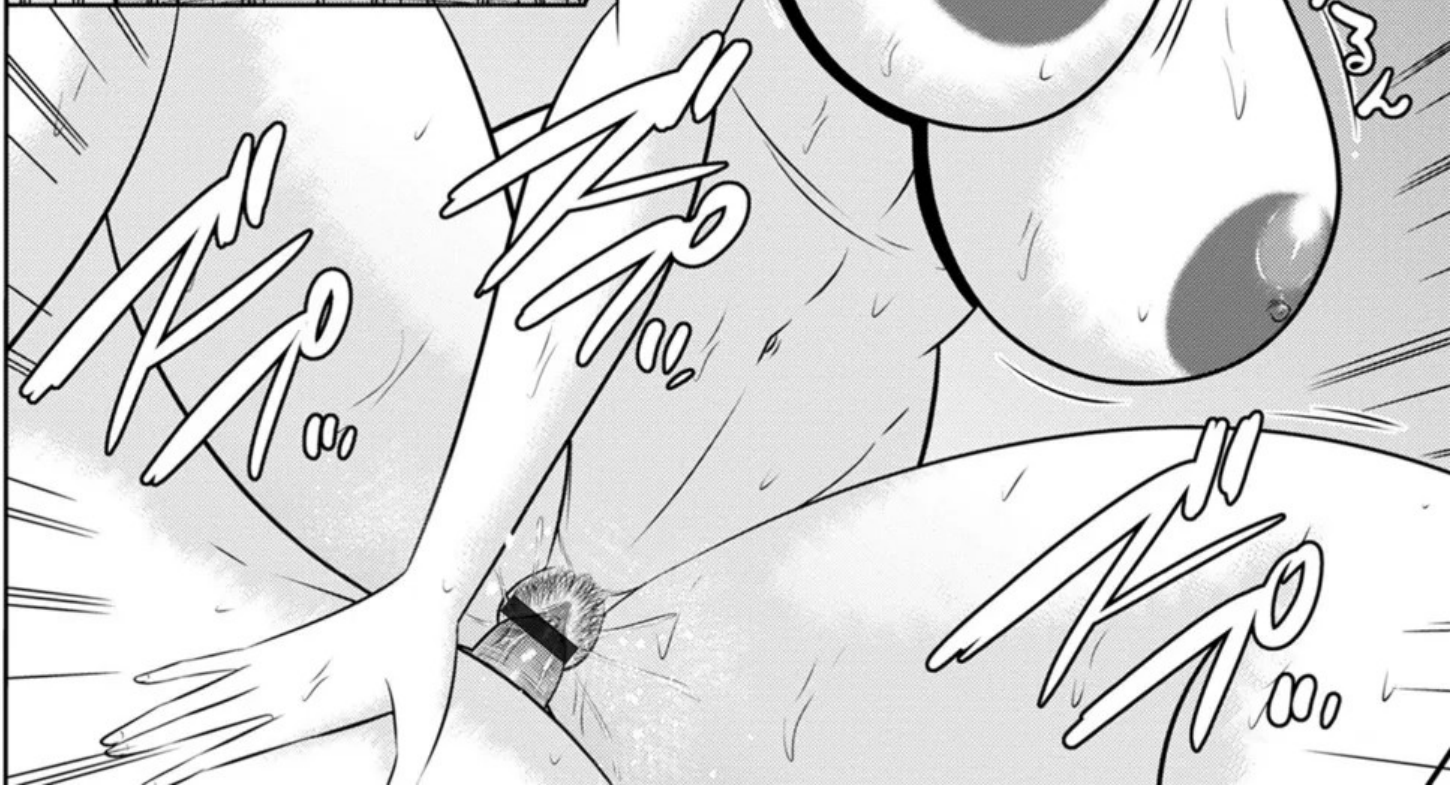


今月も色々
入用でえ...

大変なのよ...
だから...ね?



はい
はい





ほんとおっぱい
すきよね
へくたくん

ああん…っ

はーっ♡

はーっ♡



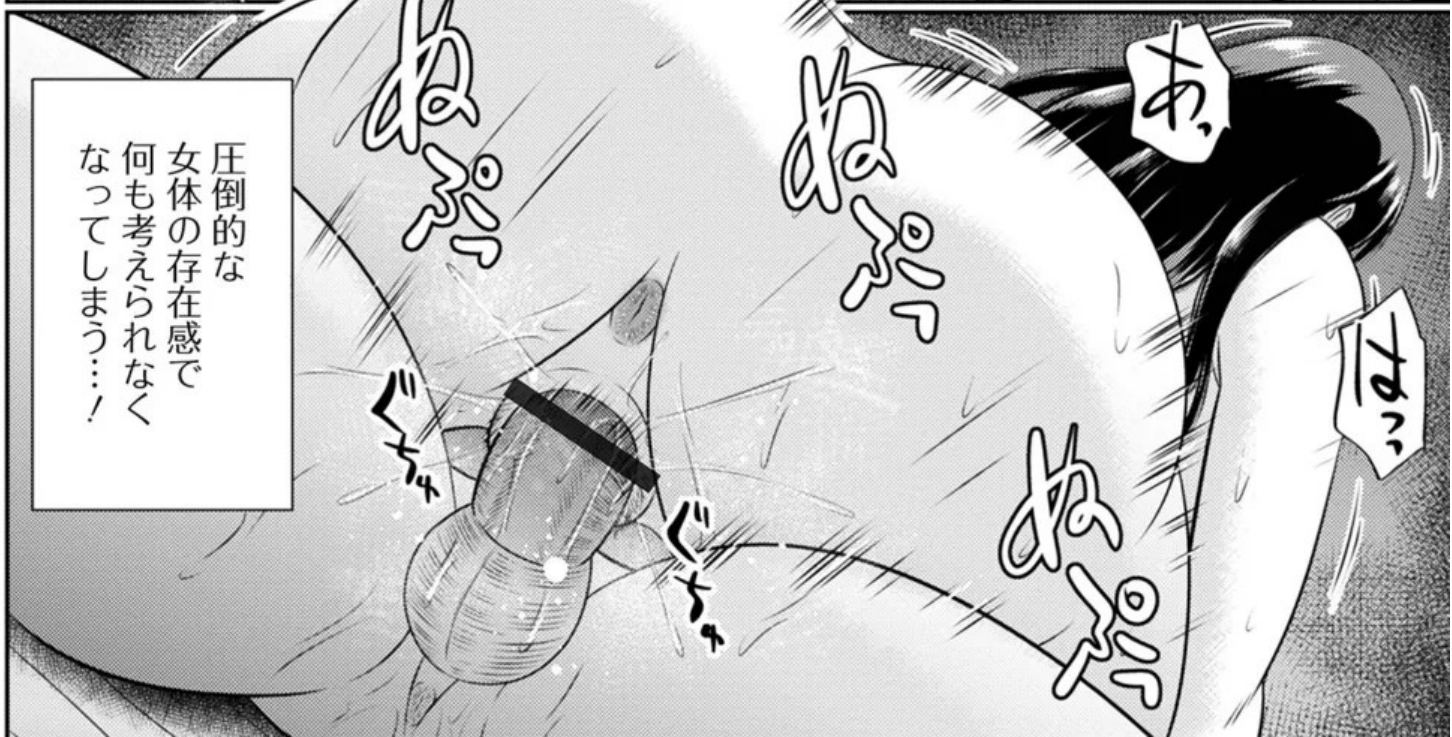
そーゆー
子供っぽいところが
かわいいんだけど

あっ♡

あっ♡

いいわよ
いっぱい感じて
頂戴…！

あっ♡



グッズと違って
あとに残らないけど…

じゅわん
じゅわん

この瞬間の
ためなら…

あ
あん
はい

全然アリだ…！

はー
はー

ああ…
ミヤさん

あー
♡

あー
♡

めちゃくちゃ
気持ちいいいい…っ！

あー

あー

あー







僕めちゃくちゃ
気持ちいい
ですから…!



僕が金欠な
ことであって…

早く大人になって
カネを稼いで…



レイさんみたいな
女に…!





あああ…んっ
へくたくんのおちんぽ
気持ちいい…っ！



いいわよ
へくたくん！



ミヤさん…
もう射精さう
です…っ



一緒に…っ

イク…っ



旦那来る前に
戻っておかないと
まずいから…

じゃあまた
今度ね
へ〜たくん

あと振込
よろしくね

結局いつも
ミヤさんの
ペースなんだよなあ

気持ちいいから
いいけど…

あはい
それじゃ…

たへい
なんだけど…
まあいいや

キラ

…

本来なら
フィギアが
飾られているはずの
ケース

本来ならゲームと
ブルーレイディスクが
山と積まれる予定の
スペース

おおおおお…っ

こうして
僕の苦悩は
続くのだった

がらん…

END



へえ
それは楽しみね

人妻女教師の憂鬱

そう…私たちは
(元ではあるけど)
教師と生徒の間柄で
不倫関係にあるのだ



ごちそう
さまでした



珍しいわね
上木くんが
食事に誘って
くれるなんて

ふふ…
たまには
いいでしょう
先生

今日はこのまま
僕の部屋に
直行ってことで
いいですね



かまわないけど…
やけに念押し
するわね

なにか
あるの?

私の名前は
中平千草
(ナカヒラチグサ)
現役の教師だ



ふふ…
それは部屋に来ての
お楽しみですよ

そしてこの子は
元教え子でフリーターの
上木匡(ウエキタダシ)くん

私がタダシさんと
再会したのは
本当に偶然だったか

積極的に
こういう関係に
なりたがったのは
私の方だった

その理由は
単に若い男との
不倫に興味が
あったというより…

私の性癖にあった



私には教師と生徒の
禁断の関係を
体験したいという
欲望があったのだ

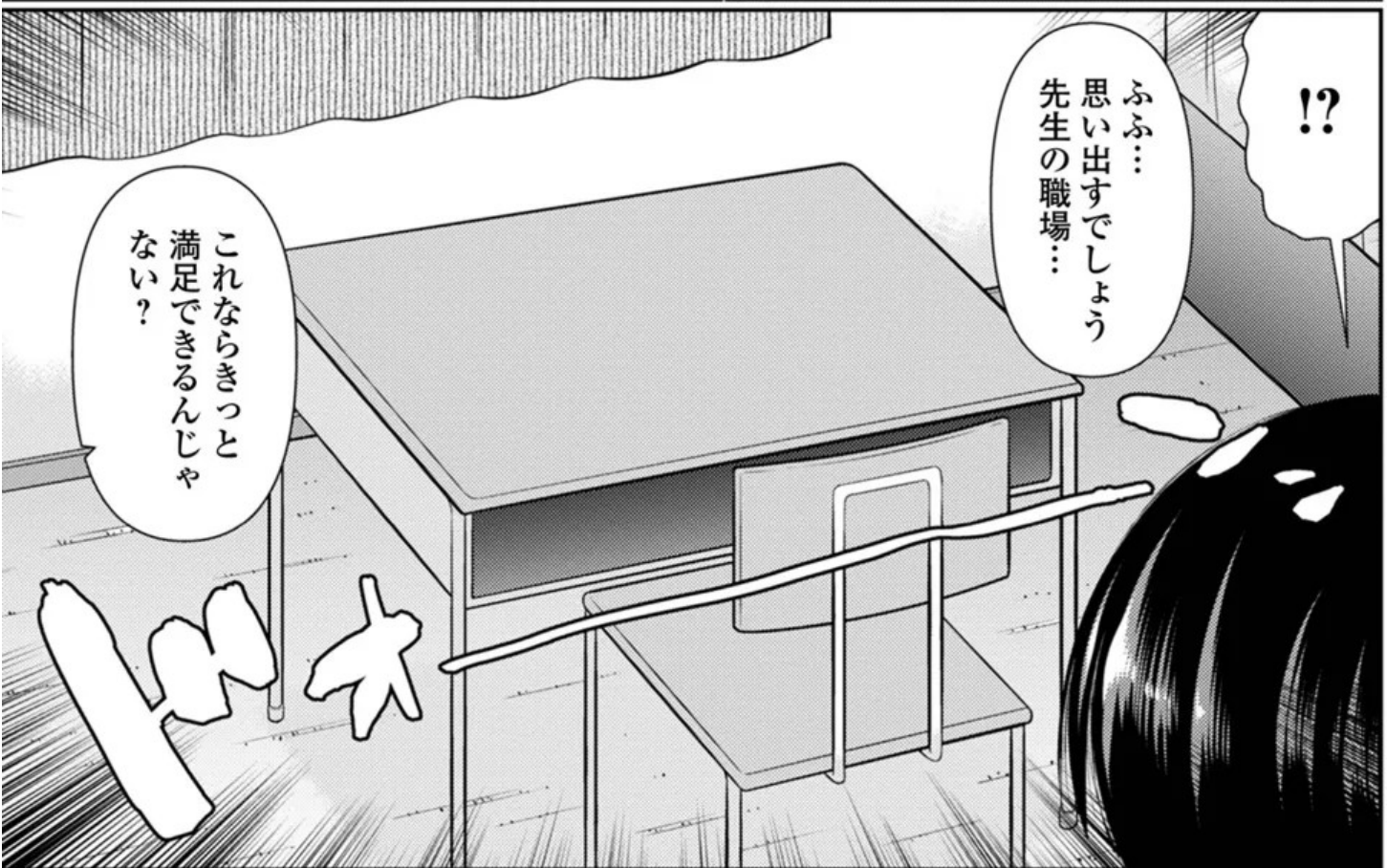
もちろん
リスクを犯してまで
してみようなんて
思わなかったが…

その欲望は
留まることは
なく…



夫相手では
とうてい
解消できるものでは
なかったのだ





ほら
気分出るでしょう

チグサ先生…!?

…
いつの間に!?

これじゃ授業なんて
受けられません…
どうしたらいいですか?

……

ふふ…

ねえ先生…

ここ…
先生を見てると
つい欲情して
しまつて…

ここがこんなに
なつちやいました

しょうがないわね…

先生が処理して
あげる…

信じられない…
こんな小道具で
めちゃくちゃ
テンション
上がってる…



いつもと同じ
タダシくんのお
ちんちん…



私って
こんな単純な
女だったんだ…



でも
スイッチが
はいっちゃってる
今だと…



全く味わいが
違ってる…！

ああ…
ずっと体験したかった
この感じ…！

めちやくちや
興奮しちゃう…っ！





きつと旦那さんにも
見せたことがない
顔でしょそれ？

今までないくらい
感じる顔を
してますね…



いい顔してますよ
チグサ先生



ふふ…
小道具買ったかいが
ありました！



!?



ああ…
すごく気持ち
いいですよ
先生…！

人妻のフェラテクで
もつと僕のちんぽを
扱いてください…っ！



今の私…
すごく興奮してる
から…

はー♡

はー♡

はー♡

私の膣内…
きつと気持ち
いいわよ

みんな
見てて頂戴…

先生今から
みんなの前で
セックスするから…

私が感じてる
姿…

ああっ!?

みんなでオカズに
して頂戴…っ!



これ…
まさに私が
欲しかった
快感…!!

夫相手じゃ
絶対に経験できなかった
快感だわ…っ!

タダシくん
本当に
ありがとう…!

ああ…
めちゃくちや
気持ちいい…っ!



それって…
旦那さん相手より
感じてるって
ことですか？



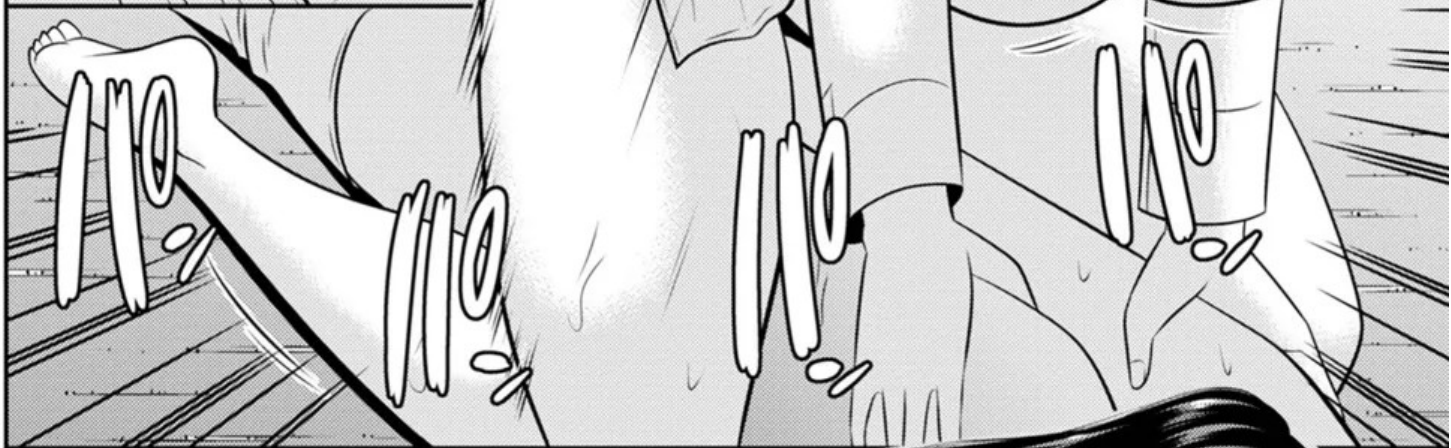
本当に
凄い…っ

こんなに感じるの
人生ではじめて
かも…っ！



ああん
もう…っ

タダシくんの
いじわる…っ



腰が全然
とまらないんです
ものお…っ！

わかるでしょう
だって…



いいわよ...
先生は責任を
持つから...

ああ...
みんなの
おちんちんが
あんなに膨れて...

もうイキたい
のね...っ!

あなた達の
生臭い
ザーメン...

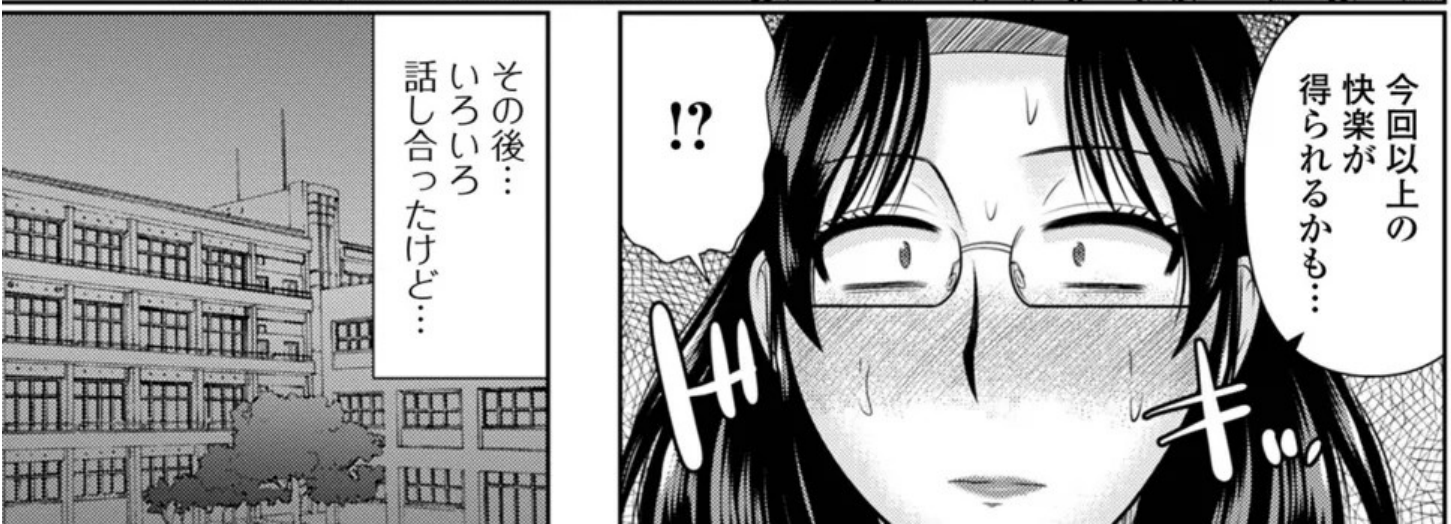


チグサ先生...っ
射精する...っ!

全部先生に
射精して
頂戴...っ!

ああ...っ







僕の住んでいる
アパートは
某テーマパークの
すぐそばにある

なので
地元の友人が
利用させてくれと
やってくることも
しばしばだ

めんどくさい反面
色々貸しを作れるので
できる範囲で対応
してきたのだが：

中には厄介な人も
いるわけで：

テーマパーク好きの 人妻

こんにちわ々
マサオくん！

またきちゃった

それがこの人：
辻塚琴絵
(ツジツカコトエ)さん

グッ
キヤ



とにかくこの人は
テーマパークが
大好きで…

僕の父親の
遠縁に当たる人だが
この部屋に来るまで
接点がなかったにも
関わらず…

今では
古い付き合いのように
ほぼ月イチで
やってくるように
なってきた

また旦那さんは
ほったらかし
ですか…?

更に厄介なのが
彼女は
人妻で…

大丈夫よ
もう慣れてる
から

イヤあんまり
頻繁に来られると…

ほ僕にも
彼女がいますし…

大丈夫
黙ってれば
バレやしないって

…

いや
そういう問題
では…

いいから
いいから

!?







喉奥まで使って…
僕のチンコが
生暖かい粘膜に
包みまれる…っ



ああ…
コトエさんっ



いつもの
ことながら…
なんてうまい
フェラなんだ…っ



やばい…
出る…っ



下半身丸出しで
半勃ちしとい
てよく言うわ

…ぼ 僕と
彼女の関係は
もつと清らか
ですから…

実際彼女の
オマンコより
気持ちいい
でしょう？

ふふ…
すごい量
十分満足でき
たみたいね

はー！

はー！

はー！





もちろんこんな格好
旦那さんには
見せたことはないだろう



夫も知らない
年上の女性の
恥ずかしい秘密を
知っている…



そう…これは
僕だけが知ってる
コトエさんの姿…！



それだけで
僕はたまらなく
興奮してしまうのだ

はぁあんっ





私は白猫ちゃん
だから…
そういうの
よくわかんない
にゃん！



なにそれ
反撃のつもり？
大丈夫
あの人 私に
惚れてるもの…



それに？

それに…



いやあん
怒らないでえ…！

なんですか
それ…！



まったく…
お互い危ない橋を
渡ってるというのに
この態度

全く危機感が
ないというか
なんというか…



ただこんなふう
にごまかす
コトエさん
を見ると…

もしかして
僕に対して
本気なのかも…と
考える時がある



そうでなきゃ
こんなに頻繁に
僕の部屋を訪れる
はずがない

とはいえ…

相手がこの
コトエさん
だから…

ただ単に
テーマパーク
ついでに
遊ばれてるのかも
しれないけど…

ああ…
コトエさん…

あなたの
人妻らしい
豊満な肢体…

めちやくちや
気持ちいいです…っ

ああん

今日は一段と
激しいのね
マサオくん…！

あゝ♡

あゝ♡

とっても
気持ち
いいわ…！



はあん…っ
素敵！

おちんちん
膣奥まで
届いてる…っ

ああ…
マサオくん…っ

あゝ♡

あゝ♡



あなたの
おちんちん
最高よ…っ





若い男の子も
味わうことが
できるなんて...



私ってなんて
ラッキー
なのかしら...!

ありがとうございます
マサオくん...!



いっぱい
気持ちよくなつて
頂戴ね…!



その代わり
君のおちんちん
たっぷり扱いて
あげるわ!



ああ…
コトエさん…っ!



もうだめです…っ

射精る…っ!!



まったく
つまらない見栄はって
可愛いんだから
キミはっ！

今回は珍しく
テーマパークより
僕を選んだ
コトエさんだった…



ああ…っ！

END



エロい
下着が
結ぶ愛もある

その日…
暇を持て余していた
学生の僕は

ふと思いつき
夜の散歩と
洒落込んだ…

流石に
人っ子一人
いないな…



そんな時
だった



ど派手な格好で
自撮りしている
女性…

あれは…

僕は
この女性を
知っていた…!!





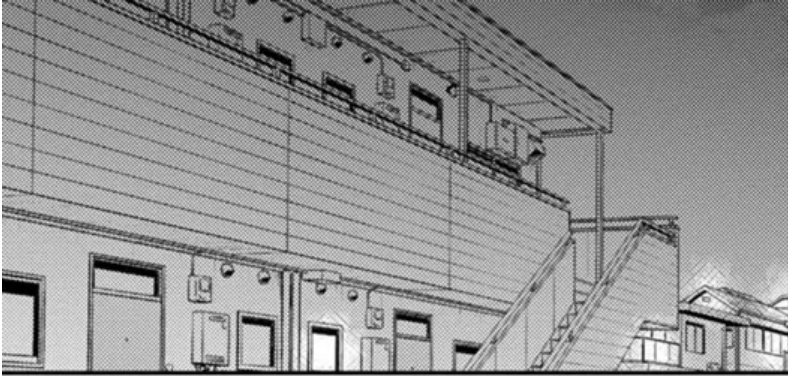
驚いたな
あの大人しそうな人に
こんな一面が
あったなんて…

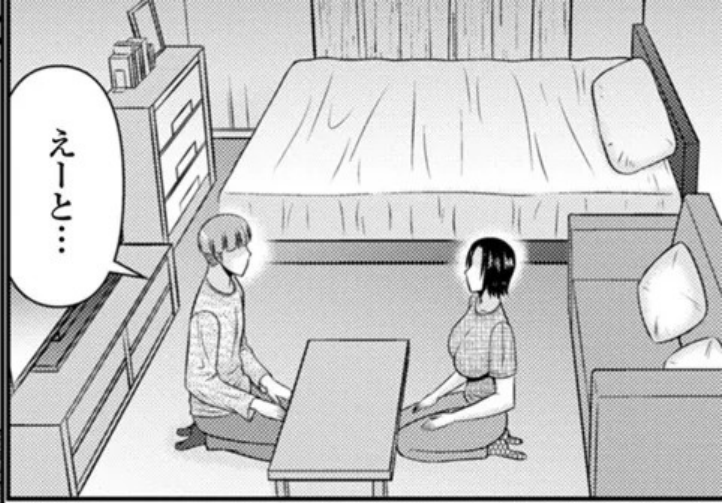


おはよう
ございます

彼女は僕の下宿先の
隣の部屋に住む人妻
栗生妙子
(クリウ タエコ)さん
ではないか…!







えーと…



それで
あれは一体…



すみません
驚かせてしまって！

とにかくあれは
見なかった
ことに…！

！？



まああ
落ち着いて
ください

なにか事情が
お有りなら
話してみませんか？



人に言えば
スッキリするかも
しれませんよ？

…



そうして栗生さんが
話し始めた内容は
こんな感じだった

夫との関係が
なくなってしまう
（セックスレスと
いうことらしい）
寂しかったので…

ああいう下着で
挑発してみたが
うまくいかなかったと…

そのうち
下着をつけた自分を
誰かに見られたくなり…

とはいえ
誰に見せる度胸も
なくて…

ああいうふう
に徘徊しては
自撮りなどで
楽しんでいたと
いうことだった…

このひと…
もしかして…

あの…

さっきの下着
まだつけてるなら
僕相手に見せて
みませんか？

!?

いえ
脅かすつもりは
ないんです

でもどうせ脱ぐなら
公園よりここで
僕に見せたほうが
安全じゃないですか？

それで
栗生さんの気が
済むなら…

悪い話じゃ
ないでしょう？

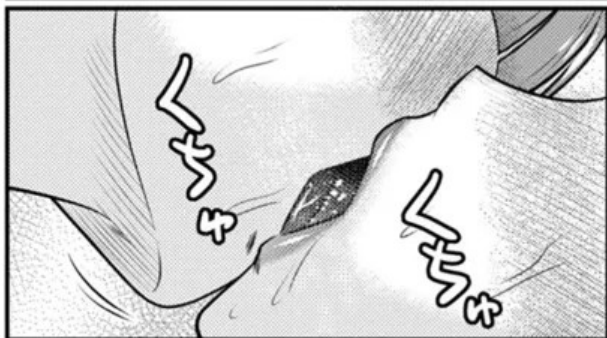
そうですね…

…

すっ











全然
気づかなかった…！

はー！

はー！



すぐ隣に
こんな素敵な男性が
いたなんて…

ほおおお…っ

自分が
これほど…

はー

はー



ひぐうっ

はッ

はッ

男性との関わりを
求めて
いたなんて…！

はッ
はッ
はッ





ああんっ



どうですか
栗生さん？

あなたが本当に
シタかったことが
わかりました？



んあふう…っ

これからも
僕で良ければ
いつだって…



お手伝いさせて
いただきますよ！

はああうん…っ！



ああんっ

なんて気持ち
いいのかしら...っ！

私...
ようやく

ありがとう
ございます
川角さん

自分のやりたいことを
見つけられましたあ...！





END